

# 極鋭カワハギAIRに“ボトム”と“SF”が仲間入り

●VS、F1の2アイテムだった極鋭カワハギAIRにボトムとSFが仲間入りした。ボトムは基本的に穂持がしっかりしており、操作性、フッキング性能に優れ、同社の調子比較では汎用性に富んだ1354調子となっている。今回メインに使用した荒井良之助さんによると、集寄を使用した釣りにも最適なオールラウンダーとのこと。しなやかさが特徴のSFは違和感を与えずに食わせる1134調子。目感度に優れているので居食いのアタリも大きく表現してくれる。SF釣法のパイオニア宮澤幸則さんの話ではキャスト&カーブフォール後の誘い下げ、ゼロテン時のアタリも取りやすいとのこと。いずれも自重は60グラム台、軽さは感度を実証する製品だ。発売中。

アイテム	全長(m)	継数(本)	仕舞(g)	自重(g)	先径/元径(mm)	負荷(号)	カーボン有率(%)	メーカー希望本体価格(円)
ボトム	1.75	1	175	63	0.5/9.8	20-40	99	51,500
SF	1.76	1	176	61	0.6/9.8	20-35	99	51,500



## アドミラA100XH/XHL

●今回、メインに使用したリールがアドミラA100XH。軽量、コンパクトでカワハギ釣りにも最適。フルメタルハウジング、TWS、UTDなど搭載。右巻き、左巻きを用意。  
■SPEC =ギア比8.1、自重160g、メーカー希望本体価格29,400円



## WPクッション

★釣り座の負担を軽減するクッション。防水、滑りにくいラバー付き。S、Mサイズ。カラーはブルーとホワイトの2色。メーカー希望本体価格3000~3300円。10月発売予定。



## 快適船シンカーSH

★はわせ釣り、キャスト性能に優れたフォルム、上下に付いたアイは重心の差により様ざまな使い方も可能。カラーは4色、25、30、40、50号を用意。メーカー希望本体価格600~850円。10月発売予定。



## チョイ置きトレイ

★アサリのエサ置き、予備ハリを置く磁石、取り外し可能なスノコまで付いた便利なトレイ。固定力も大幅にアップして新登場。メーカー希望本体価格3400円、ボックス付き4500円。10月発売予定。



## 快適カワハギ仕掛け3本ベーシック

★ハリス直結び仕様で低価格設定。ハリはサクサス加工の4種類から選べ、各3タイプのサイズを用意。メーカー希望本体価格すべて420円。10月発売予定。



▲参加者は新製品のSF、ボトムを使用。宮澤さんはもちろんSF  
▼林良一さんは極鋭カワハギAIRのVSとF1も使用



カワハギ本格シーズンイン  
ファン注目、今期のダイワ新製品



★ダイワスタッフ、カワハギブロガーが新製品を使用した釣行だった

# カワハギブロガーのお墨付き 極鋭カワハギのニューフェイス

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.76

# カワハギ最前線

at 三浦半島久比里出船



▲SF釣法で宮澤さんがSFを曲げた



▲「前のSFより確実に進化してます」と堀江晴夫さん  
▶「これまでのボトムの中で最高傑作といえます」と田淵雅生さん



★極鋭カワハギAIRに2アイテムが追加された

●夏の暑さも一段落してくると、関東各地でカワハギ釣りのシーズンを迎える。ファンの注目はカワハギ用品の最先端をいくダイワの新製品だ。今回は名手ぞろいのカワハギブロガーが今期の新製品を持参し、メッカ三浦半島久比里から出船した模様をお届けしよう。

「でも最高の仕上がりで」と田淵雅生さん。  
ニューロッドの使用感に関しては皆さん同様に

評価。同時に、初披露のオモリやトレイなどの用品にも大きな関心を寄せていた。  
実釣は各自が好みの竿を使っ

▼田淵さんはボトムが大のお気に入り



▲堀江さんはSFから始めてつぎにロッドチェンジ



▲荒井さんはSFで戦中1枚目の20センチ級



▲終始SFを使って良型中心に数をまとめた置置さん

この荒井良之助さんで22センチの良型。集寄を利用して底中心にトレースして掛けた1枚だった。これを皮切

## 動画連動!



★当日の動画はダイワ「船最前線」よりご覧いただけます。

1時ごろからは再び潮が動き出すとともに、食いも活発になる。とくにボトムを使用する田淵雅生さん、SFの菅沼昌樹さんは絶好調。まるで盛期のような釣れっぷりを見せていた。14時半に納竿。全員が竹岡沖の釣れ具合に納得するとともに、新製品の使用感に太鼓判。笑顔でのご帰還となった。

「産卵後には引きも強く、魚体がきれいですね。体力も戻ってこれからシーズンインの証でしょう」と言いながら林さんはVSにロッドチェンジ。午前中は中大型を中心にますますの食いだったが、潮が止まる12時前からピタッとアタリが少なくなる。SF釣法の生みの親でもある宮澤さんが竿出したのはこのころ。潮が緩いせいかわらじが、多く、1枚目には多少手こずった。

りにSFを使用する堀江晴夫さんも同型を手中にし、AIRのF1から釣り始めた林さんも25センチを釣り上げる。「もともとボトムのシリーズが好きで、メインに使っていたのですが、今回の新製品はバランス、操作性、感度のどれをとっ

いずれもSMT、AGS、ESSなどのテクノロジーとともにパーミング性能や感度にも優れたゼロシートを搭載。自重も63、61グラムの超軽量仕様となっている。「レッドチューンSFは先径0.5ミリでしたが、AIRは0.6ミリとやや太くして穂先も長く取ったことにより、雑音を解消しています」と宮澤幸則さん。

毎年欠かさずニューロッドを送り出すダイワ、今期は「極鋭カワハギAIR」シリーズにボトムとSFの2アイテムが加わった。水深10~15メートル前後の釣り場に到着し、さっそく釣り開始となる。